

(事後評価)

東京大学グローバルイノベーション人材育成促進事業

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：東京大学（総括責任者：堀井 秀之）

採択プログラムの概要

本事業は、イノベーションを継続的に生み出すため、自らの研究成果をベースに事業化プランを策定し、更にグローバルな市場・競争環境下において自ら事業化（起業）に参画できるスキルとマインドを持ったイノベーション人材の育成を目的としている。そのために、本事業では若手研究人材（修士・博士課程学生、PD・若手研究者、企業内若手技術者・研究者等）に対して、創造性（クリエイティビティー）教育及びアントレプレナーシップ（起業）教育と、具体的な技術シーズや社会的課題をベースとした事業化構想が現実性を帯びたものにするために、外部専門家によるメンタリングとを合わせて提供する。プログラムのテーマ領域は、基盤となる学融合的なものに加え、保健医療分野等の専門性に軸足を置いたものも実施する。

また、常にグローバルな視点を念頭に置くことが重要であり、本学が培ってきた産学連携の仕組及び海外有力大学等との連携を積極的に活用する。実践型・体験型の人材育成を目指し、事業面と社会面でのイノベーションの継続的創出のための人的基盤（インフラ）とエコシステムの構築を実現するものである。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
S	a	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プログラムの実施により、これまで分散していた既存の学内の3つの取組の一体運営を実現し、外部機関との連携をさらに強固で持続可能なものに発展させている。受講者数は高い目標をほぼ達成し、起業の実績も上げるなど、計画を十分に達成しており高く評価できる。また、幹事校としてアントレプレナー教員育成プログラムによる他校教員への先行ノウハウの提供、シンポジウム開催やオンラインコミュニティ形成による共通基盤整備等、EDGEプログラム全体の活動の高度化への貢献も評価できる。

・**目標達成度**：受講者数は要件を大幅に上回る579人の実績があり、さらに300名の外部受講者の実績等、概ね目標を達成できたと評価できる。採択時の留意事項である「保健医療ソーシャル・

アントレプレナー養成プログラム」との連携も適切に対応している。幹事校として共通基盤事業を率先し、EDGEプログラム全体のリーダー的役割を果たした点も評価できる。

・**成果**：最先端の知見を持つ組織や講師を国内外から招き、グローバルレベルのイノベーション教育とアントレプレナーシップ教育を実施している。受講者の9割が大学院生や若手研究者であること、大学等の研究成果を基にしたベンチャー創業等の面で成果を上げていることは高く評価できる。受講者のうち、外部受講者が半数以上であることは、整備されたカリキュラムの教育プログラムとしてのブランド力の高さを示している。企業人の参加は、ビジネス環境における知識・経験の少ない大学院生や学内若手研究者等にとって有意義なものであり高く評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：創造性教育、起業教育の各プログラム担当者が週1回の定例ミーティングを開催している。また、受講者アンケートやメンターの意見、諮問委員会のアドバイスによって、プログラム内容の見直し、改良を行っている。本事業に選定されていない大学への普及やノウハウの共有に向けた情報発信に加え、共通基盤事業として教員のための教育プログラムやシンポジウム・セミナーの開催等を行い、多くの参加者を得ていることは評価できる。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：大学の中期目標・中期計画においてもアントレプレナー人材教育の推進・強化・拡充が位置づけられており、また経団連や個別企業、メンター等と連携がとれていることから、取組の継続性・発展性が期待できる。社会人等外部受講生のニーズに十分応えられる教育プログラムの運用を相応の受講料収入を確保しながら行う、継続可能な仕組作りの強化を期待する。